

# 2016年度 一般社団法人日本社会福祉学会事業報告

(2016年4月1日～2017年3月31日)

2016年度は、社会福祉学分野のさらなる学問的水準の向上を図るため、学術研究集会や学会機関誌の刊行などの活動を行うとともに、前期理事会からの検討案件を引き継ぎ、研究倫理や大会のあり方を検討する特別委員会を立ち上げ、活動を展開した。

## I. 学術研究集会、講演会等の開催

### 1. 全国大会

#### 1) 第64回春季大会報告

「2016年度定時社員総会」開催にあわせて、2016年5月29日(日)に立教大学池袋キャンパスで開催した。「社会福祉学における三浦理論－検証と継承－」をテーマにシンポジウムを行い、約200名が参加した。

#### 2) 第64回秋季大会報告

2016年9月10日(土)・11日(日)に佛教大学紫野キャンパスで「社会福祉が育む『共生の創造』」をテーマにして開催し、約900名が参加した。大会ホームページで『報告要旨集』および『大会プログラム』を公開するやり方については、会員の理解も深まり、かなり定着したように思われる。また今大会においても、事前に申請した大学院生等の学生会員に対して参加費を免除することとし、90名からの大会参加費免除申請があった。

#### 3) 第65回全国大会に向けての準備

第65回春季大会は、2017年5月28日(日)に明治学院大学白金キャンパスで「教育と福祉における協働の論点を探る」をテーマに開催する。子どもの様々な課題に取り組むべく政策や実践が展開されているが、教育と社会福祉の両者をつなぐ課題が山積している。教育と社会福祉をつなぐ本質や原点を見直し、その歴史的背景や社会的ニーズについて考え、協働の論点を探る議論を展開する。

第65回秋季大会は、2017年10月21日(土)・22日(日)に首都大学東京南大沢キャンパスで「『包摂型社会』への提言一人ひとりの生の剥奪と再生」をテーマに開催予定である。

#### 4) 第66回秋季大会について

2018年度第66回秋季大会は、金城学院大学(愛知県)で開催することが決定した。

### 2. 日本社会福祉学会フォーラム

2016年度は、3月26日(日)におかやま西川原プラザ(岡山県)で、学会の中国・四国地域ブロックとの共催で「児童福祉法改正で何が変わるかー社会福祉実践がすべきことー」をテーマにしてシンポジウムを行った。参加者は約100名であった。

2017年度開催の第14回フォーラムは九州地域ブロックとの共催で行うことを予定している。

### 3. 地域ブロック研究大会については、各地域ブロックからの事業報告に記載されている。

## Ⅱ. 学会機関誌『社会福祉学』その他刊行物の刊行

### 1. 学会機関誌『社会福祉学』刊行

#### 1) 機関誌編集委員会活動

##### ①機関誌編集委員会構成

2016年度の機関誌編集委員会は以下の17名で構成した（敬称略）。

委員長：坪 洋一（理事）、副委員長：今井小の実（理事）

委員：池本美和子、石川時子、沖倉智美、奥西栄介、加藤博史、川島ゆり子、倉持史朗、小泉広子、小林 理、柴田謙治、三島亜紀子（英文誌担当）、村田文世、室田信一（英文誌担当）、山井理恵、山本真実

##### ②機関誌編集委員会開催

2016年度には編集委員会を7月10日（日）、10月1日（土）、1月8日（日）、3月23日（木）に、計4回開催した。また査読者の選定については、編集委員会ポータルを活用して、8月、11月、2月、5月に実施した。さらに、査読委員を含めた拡大編集委員会を、第64回秋季大会にあわせて9月10日（土）12：10～13：00に、佛教大学で開催した。

##### ③機関誌のテキストデータの提供

視覚障害のある会員の要請に応じて、『社会福祉学』のテキストデータの提供を行った。

#### 2) 機関誌『社会福祉学』刊行

2016年度には和文誌を4回（57-1／57-2／57-3／57-4）発行した。

掲載内容・発行月・印刷部数は以下の通り。

巻／号	57-1	57-2	57-3	57-4
発行月	2016年5月	2016年8月	2016年11月	2017年2月
論文	9	9	5	9
実践報告			2	
調査報告	1	1		1
資料解題				
書評	2	4	2	2
文献紹介	1	1	1	1
学会回顧・展望			11	
全国大会等				4
総ページ数	162	170	282	174
印刷部数	5,200	5,200	5,200	5,100

※なお、英文誌『Japanese Journal of Social Welfare』については、4本の投稿論文があり、5月末に5号として刊行できるように編集作業を進めている。

### 2. 地域ブロック機関誌刊行

各地域ブロックの機関誌発行状況は、各地域ブロックからの事業報告に掲載されている。

### Ⅲ. 研究の奨励および研究業績の表彰

#### 1. 日本社会福祉学会 学会賞

1) 2016 年度学会賞の審査委員会は、古川孝順委員長、太田貞司委員、大友昌子委員、黒田研二委員、白澤政和委員、三本松政之委員、鬼崎信好委員（2016 年度定時社員総会終了時まで担当理事）と学会賞審査委員会担当の大島巖理事（2016 年度定時社員総会終了後より）が構成し、2015 年 1 月から 12 月までに刊行された図書及び論文を審査した。

#### 2) 審査対象研究業績

2015 年 1 月から 12 月までの刊行された研究業績の内、会員からの推薦 10 点、国立国会図書館検索システムから抽出した 3,444 点、「アマゾンリサーチ検索」から抽出した 14 点より、会員業績の 38 点を審査対象とした。論文部門は、自薦・他薦された論文がなかったため、2015 年に本学会機関誌（第 55 巻 4 号、第 56 巻 1～3 号）に掲載された単著論文 29 本を審査対象論文とした。

#### 3) 審査の経緯

第 1 回審査委員会（2016 年 3 月 21 日開催）

審査対象となる研究業績を絞り込んだ。

第 2 回審査委員会（2016 年 5 月 2 日開催）

38 点の単著、29 本の論文を第 1 次査読対象とした。

第 3 回審査委員会（2016 年 5 月 29 日開催）

第 1 次審査対象図書の査読結果を報告し、第 2 次審査対象として、5 点の単著、6 本の論文を選考し、委員全員で査読することとした。

第 4 回審査委員会（2016 年 7 月 18 日開催）

第 2 次審査対象図書の査読結果を報告し、総括的審査の結果、全会一致で以下の通り、奨励賞（2 名）の授賞者を決定した。

#### ○奨励賞（単著部門）

森口 弘美 『知的障害者の「親元からの自立」を実現する実践 エピソード記述で導き出す新しい枠組み』（ミネルヴァ書房、2015 年 9 月 30 日刊）

#### ○奨励賞（単著部門）

蜂谷 俊隆 『糸賀一雄の研究 人と思想をめぐって』（関西学院大学出版会、2015 年 3 月 25 日刊）

#### 4) 学会賞授賞式

2016 年 9 月 10 日、第 64 回日本社会福祉学会秋季大会（於：佛教大学）において授賞式が行われ、古川孝順委員長の挨拶及び経過報告の後に、岩崎晋也会長より森口弘美、蜂谷俊隆の両氏に奨励賞が授与された。

#### 2. 地域ブロックへの研究奨励

「日本社会福祉学会地域ブロック助成金配分基準」に基づいて、各地域ブロックの研究事業を支援した。各地域ブロックの下の「地域部会委員会」が中核となり、事業計画に基づいて活動が展開された。その事業内容は各地域ブロックからの事業報告に掲載されている。

## IV. 関連学術団体との連絡および協力

### 1. 日本社会福祉系学会連合

会長として本学会の黒木保博副会長（任期：2016年5月～2018年5月）を、事務局長として金子光一理事（任期：2016年5月～2017年3月）ならびに湯澤直美理事（任期：2017年3月～2018年5月）を、運営委員として小櫃俊介会員と後藤広史会員を派遣している（任期：2016年5月～2018年5月）。また、本学会の学会事務局と同様に、日本社会福祉系学会連合として、加盟学会との連絡、資料作成、経理処理等の事務局業務について（株）国際文献社と委託契約を締結している。

2016年12月17日（土）に日本大学文理学部キャンパスにて「災害福祉研究—災害予防、対応時における多職種連携のあり方—」というテーマでシンポジウムを開催した。このシンポジウムについては報告書を作成し、学会連合ホームページに掲載予定である。また、災害福祉研究の成果を蓄積し、災害福祉学の構築に寄与する観点から、学会連合ホームページ内に「災害福祉アーカイブ」がつくられた。本学会としてもこの取り組みを支援するため、学会ニュース等において情報収集のための広報活動に協力した。

### 2. その他の関連団体との連携

「社会政策関連学会協議会」「社会学系コンソーシアム」「ソーシャルケアサービス従事者研究協議会」に理事等役員を派遣し、連携に努めた。

## V. 国際的な研究協力の推進

### 1. 韓国を始めとする東アジア諸国との連携及び学術交流

#### 1) 韓国社会福祉学会への派遣

2016年4月29日（金）・30日（土）に韓国釜山市 BEXCO にて開催された韓国社会福祉学会春季学術大会に、自由研究発表者6名（6チーム）を派遣した。

#### 2) 中国社会福祉研究専門委員会第8回年次大会への派遣

2016年9月24日（土）～26日（月）に中国上海市復旦大学にて開催された中国社会福祉研究専門委員会第8回年次大会に、学会公式訪問者として黒木保博副会長、包敏国際学術交流促進委員を派遣した。

#### 3) 2016年度国際学術交流シンポジウムの開催

2016年9月11日（日）に佛教大学紫野キャンパスにて開催された第64回秋季大会へ、韓国ならびに中国より招聘者を招き「移住と社会福祉 Part 2 —共生社会のあり方を求めて—」というテーマでシンポジウムを開催した。

#### 4) 日・韓・中3カ国学術交流会議について

第64回秋季大会前日の9月9日（金）に、日韓会長会議、日韓中3カ国協議を開催し、懇親会を行った。さらに9月24日（土）に中国上海市復旦大学にて3カ国学術交流協定締結をめぐって協議を重ねた。

### 2. 在日留学生会員の育成に向けた事業実施

2016年9月10日（土）に佛教大学紫野キャンパスにて開催された第64回秋季大会において、留学生のためのワークショップを実施した。

## VI. 学会の組織・運営

### 1. 会員の動向

#### 1) 入会について

2016年度の入会許可者数は、168名である。

#### 2) 会員の動向

2016年度入会者が168名、2016年度退会者が263名で、2017年3月31日現在の会員数は4,926名である。

#### 3) 名誉会員数

高島進先生が2016年5月24日に逝去され、小川政亮先生が2017年5月7日に逝去された。2017年5月10日現在の名誉会員は下記の13名である（50音順、敬称略）。

秋山 智久    阿部 志郎    井岡 勉    右田 紀久恵    太田 義弘    岡本 栄一  
岡本 民夫    忍 博次    柏木 昭    児島 美都子    杉村 宏    田端 光美  
中垣 昌美

### 2. 一般社団法人日本社会福祉学会定時社員総会

「定款」第29条の規定に基づいて、「定時社員総会」を第64回春季大会に併せて開催した。出席代議員は、143名（委任状99名含む）であった。

審議事項および報告事項は、以下の通りである。

開催日時：2016年5月29日（日） 10：00～11：10

開催会場：立教大学 池袋キャンパス 11号館 AB01 教室

#### 審議事項

1. 2015年度事業報告・決算報告・監査報告
2. 第5期役員承認について
3. 2016年度事業計画・当初予算
4. その他

#### 報 告

1. 第4期代議員選挙について
2. ロゴマークについて
3. 次期役員体制について
4. その他

### 3. 理事会

2016年度は、学会の諸課題を検討し、学会運営を円滑に遂行するために6回開催した。

役員構成は、別表一①の通りである。2017年3月2日に岩間伸之理事が逝去されたため、以降は理事19名、監事2名で理事会を開催した。

審議事項は、以下の通りである。（報告事項は除く）

#### 第1回理事会（2016年5月28日開催）

- 審議事項
1. 入会審査
  2. 2016年度事業計画案・2016年度予算案の変更について

3. 2015 年度事業報告・2015 年度決算報告
4. 監査報告
5. 学校連盟への役員推薦（監事）および社養協への役員推薦（理事）
6. その他

第 2 回理事会（2016 年 5 月 29 日開催）

- 審議事項
1. 会長・副会長の選出
  2. 今期の課題について
  3. 理事の役割分担について
  4. 臨時委員会の設置について
  5. 委員会の委員について
  6. その他

第 3 回理事会（2016 年 7 月 2 日開催）

- 審議事項
1. 入会審査
  2. 「一般社団法人日本社会福祉学会「学会本部事務局」運営要領」の廃止について
  3. 新要領「一般社団法人日本社会福祉学会事務局組織及び運営に関する要領」について
  4. 第 13 回日本社会福祉学会フォーラムについて
  5. その他

第 4 回理事会（2016 年 9 月 9 日開催）

- 審議事項
1. 入会審査
  2. 2017 年度契約更新について
  3. 学会資料のアーカイブ化推進委員会について
  4. 一般社団法人日本社会福祉学会謝金支払い内規について
  5. その他

第 5 回理事会（2016 年 12 月 10 日開催）

- 審議事項
1. 入会審査
  2. 2017 年度契約更新について
  3. 学会資料のアーカイブ化推進委員会準備委員会の設置および委員の委嘱について
  4. 一般社団法人日本社会福祉学会 規程の改定について
  5. 賛助会員入会基準、諸会費規程、入会申込書書式作成について
  6. 第 66 回秋季大会開催校について
  7. J-Stage での学会誌公開について
  8. 日本・韓国・中国の学術交流促進のための基本方針について
  9. 学会賞審査対象について
  10. ロゴマーク使用内規について
  11. その他

第 6 回理事会（2017 年 3 月 5 日開催）

- 審議事項
1. 入会審査

2. 2016 年度期末監査日程および計算書類等の理事会承認について
3. 2017 年度事業計画案および予算案
4. 2017 年度業務委託契約（秋季大会）について
5. 規程の制定、改定について（賛助会員、特定個人情報、学会賞、保存）
6. 名誉会員の推挙について
7. 全国大会運営委員の委嘱および解嘱について
8. 韓国社会福祉学会自由研究発表者の選定について
9. 2017 年度定時社員総会の議題について
10. 若手・女性会員の支援検討委員会（仮称）について
11. 研究倫理指針に違反する行為に対する申し立てについて
12. その他

#### 4. 運営委員会

事業計画を踏まえ事業状況を確認すると共に、各種委員会から提案された課題・報告事項、事務局会議からの課題・報告事項を確認、整理するために、各回の理事会に先立ち、会長、副会長、総務担当理事、研究担当理事、財務担当理事、機関誌編集担当理事をメンバーとする運営委員会を開催した。

#### 5. 監査

定款第 20 条に基づいて、2016 年度上半期の監査を 12 月 3 日に実施し、12 月 10 日開催の理事会で業務状況および予算執行状況について報告を行った。また、2016 年度全体の監査を 2017 年 5 月 2 日に実施し、理事会および定時社員総会にて、法人の業務および財産状況の報告を行った。

#### 6. 各種委員会の活動（委員会構成は別表－②）

##### 1) 研究委員会

##### 1. 2016 年度において推進した事業

##### (1) 第 64 回（2016 年度）春季大会の開催

テーマ：社会福祉学における三浦理論－検証と継承－

月 日：2016 年 5 月 29 日（日）

会 場：立教大学池袋キャンパス

参加者：約 200 人

##### (2) 第 64 回（2016 年度）秋季大会の開催

テーマ：社会福祉が育む「共生の創造」

月 日：2016 年 9 月 10 日（土）・11 日（日）

会 場：佛教大学紫野キャンパス

参加者：約 900 人

##### (3) 第 13 回日本社会福祉学会フォーラムの開催

テーマ：児童福祉法改正で何が変わるか－社会福祉実践がすべきこと－

月 日：2017 年 3 月 26 日（日）

会 場：おかやま西川原プラザ

参加者：約 100 人

(4) その他

委員会の開催 (5 回)

2. 現在、検討している事項

- ・第 65 回 (2017 年度) 春季大会の内容最終調整  
テーマ：教育と福祉における協働の論点を探る  
月 日：2017 年 5 月 28 日 (日)  
会 場：明治学院大学白金キャンパス
- ・第 65 回 (2017 年度) 秋季大会の準備  
テーマ：「包摂型社会」への提言一人びとの生の剥奪と再生一  
月 日：2017 年 10 月 21 日 (土)・22 日 (日)  
会 場：首都大学東京南大沢キャンパス
- ・第 13 回学会フォーラムの内容検討  
月 日：2017 年 12 月 9 日 (土)  
会 場：福岡市内 (九州地域ブロックとの共催)
- ・第 66 回 (2018 年度) 秋季大会の準備  
月 日：2018 年 9 月 8 日 (土)・9 日 (日)  
会 場：金城学院大学

3. その他 (課題等)

(1) 大会のあり方検討委員会のスケジュール

2017 年度定時社員総会にてアンケート結果報告

2017 年 10 月理事会までに論点整理

2017 年 3 月理事会にて提案

2018 年度定時社員総会にて報告

(2) 学会フォーラムの開催ブロックの確認

2017 年度 第 14 回 九州地域ブロック

2018 年度 第 15 回 北海道地域ブロック

2019 年度 第 16 回 東北地域ブロック

2020 年度 第 17 回 中部地域ブロック

2021 年度 第 18 回 関西地域ブロック

※原則、春季大会を関東で開催するので、学会フォーラムは関東地域ブロック以外での開催を予定している。

2) 学会賞審査委員会

1. 2016 年度において推進した事業

(1) 学会賞の選考について

業績審査は 2015 年 1 月から 12 月までに刊行された図書及び論文を審査した。

## ①審査対象研究業績

2015年1月から12月までの刊行された研究業績の内、自薦・他薦された図書（10点）以外に、国立国会図書館到着発送情報において社会福祉学に関わる文献として該当する3,444点を選び、かつそれらが日本社会福祉学会員の対象業績であるかどうかをチェックした50点を抽出した。また、アマゾンリサーチを活用し、「社会福祉（2015年刊行）」で検索した結果、上記検索図書以外に会員業績14点を抽出することができた。結果として、第1次選考委員会に提案された審査対象図書は合計74点になった。

しかし、上記の図書にはルポルタージュや翻訳書、随想、テキストなども含まれており、目次や図書紹介、概要等を検討した結果、最終的に38点を第1次審査対象著書とすることを決定した。

論文部門は、今年度は自薦・他薦がなかったため、2015年に本学会機関誌（第55巻4号、第56巻1～3号）に掲載された論文合計29本を対象論文として審査することにした。

## ②審査の経緯

### ◆第1回審査委員会（2016年3月21日開催）

第1次選考委員会に提案された審査対象図書74点について、目次や図書紹介、概要等を検討し、絞り込みを行った。最終的に38点を第1次審査対象著書として選定した。

### ◆第2回審査委員会（2016年5月2日）

上記の審査対象の研究業績について審査を行った。審査項目は、①研究の意義、視点、方法の明確性、②記述の明晰性、記述表現の妥当性、③先駆性、開拓性、独創性、④研究の完成度、成果度、⑤研究実践上の貢献度の5項目とし、各項目の5点満点で評価することを確認した。

第1次審査を行う著書38点のうち、推薦図書は1点につき4人、推薦図書以外の著書については1点につき2人の審査委員を選び、上記の5項目に焦点を当て審査することにした。最終的には審査委員ごとに10冊から17冊の審査対象図書が割り当てられた。また、自由記述でコメントを付することにした。

論文部門についても著書と同様に審査を行うこととし、審査委員ごとに6本から8本の論文を担当することになった。

### ◆第3回審査委員会（2016年5月29日）

第1次審査対象図書の査読結果を報告し、合計50点満点（推薦図書は4人での審査のため、合計点を2で割った点数で評価）のうち、42点以上の5点を第2次審査対象著書として選定した。42点未満の図書についても1冊ずつ評価を行った。

論文は6本の論文を第2次審査対象とした。

### ◆第4回審査委員会（2016年7月18日）

第2次審査対象著書5点、対象論文6本を審査委員全員で評定し、各業績に対してコメントを記載したものを共有した。いずれも評価は高いものであったが、審議の結果、全会一致で以下の授賞が決定した。

なお今年度は、学会賞審査委員会における授賞候補作の決定が7月2日開催の第3回理事会開催後となったため、定款第45条に基づいて電磁的記録による決議を行い、7月25日に全理事より授賞候補作の承認が行われた。

○奨励賞（単著部門）

森口 弘美 会員『知的障害者の「親元からの自立」を実現する実践  
エピソード記述で導き出す新しい枠組み』（ミネルヴァ書房）

○奨励賞（単著部門）

蜂谷 俊隆 会員『糸賀一雄の研究 人と思想をめぐって』（関西学院大学出版会）

(2) 学会賞授賞式について

2016年9月10日、第64回日本社会福祉学会秋季大会（於：佛教大学紫野キャンパス）において授賞式が行われ、古川孝順委員長の挨拶及び経過報告がなされた後に、岩崎晋也会長から奨励賞（単著部門）を2名の会員に対して授与した。

(3) 学会賞事業要綱の改訂について

2016年11月20日に第5回審査委員会（臨時）を開催し、理事会から検討要請があった「審査の対象等についての検討」について、委員会としての意見を取りまとめ、12月10日に開催された第5回理事会に提出した。その後も協議を重ね、「一般社団法人日本社会福祉学会学会賞事業要綱」の改正案が2017年5月27日より施行されることとなった。

2. 現在、検討している事項

学会賞事業要綱の改正に伴って、奨励賞（論文部門）が連名である場合の共著者の同意に関する内規について、博士論文のリポジトリ公開を含めた電子出版の扱いなどについて、検討の必要性が議論されている。

3) 研究倫理委員会

1. 2016年度において推進した事業

- (1) 研究倫理委員会を開催し、研究倫理案件に関して調査を実施した。その調査結果をもとに調査報告書を作成し、理事会への報告を行った。
- (2) 問題への対応を通して研究倫理指針および研究倫理委員会規程の精査・検討

2. その他（課題等）

研究倫理に関する課題については別途委員会を設置済である。

4) 国際学術交流促進委員会

1. 2016年度において推進した事業

1) 在日留学生会員の育成に向けた事業実施

(1) 留学生ワークショップの実施

開催日時：2016年9月10日（土）10：00～12：00

開催場所：佛教大学1号館4階415教室

参加者数：約35名

テーマ：外国人研究者から学ぶ研究姿勢や研究のすすめ方

—国際比較研究の基礎と方法の視点から—

基調講演：「東アジア比較社会福祉への招待：比較社会福祉の研究方法与事例」

講演者：朴光駿（佛教大学）

講演：「韓国における比較社会福祉の動向」

講演者：Park Byung Hyun（韓国社会福祉学会会長）

「中国における比較社会福祉の動向」

講演者：銭寧（中国社会福祉研究専門委員会副理事長）

グループディスカッション

趣旨説明・司会進行：阪口春彦（国際学術交流促進委員会委員）

(2) 地域部会での留学生のための事業推進協力

関西地域ブロック：第39回若手研究者・院生情報交換会（留学生ワークショップ）

開催日時：2017年1月21日（土）14：00～17：00

開催場所：同志社大学新町キャンパス

テーマ：国際比較研究の枠組み構築－研究対象設定を中心に－

2) 東アジア諸国との連携及び学術交流・推進事業

(1) 韓国社会福祉学会との学術交流・推進事業

①日韓会長会議

開催日時：2016年9月9日（金）17：00～17：40

開催場所：佛教大学特別会議室

協議事項：学術交流「覚書」

今後の学術交流研究促進強化

今後の国際シンポジウム・テーマ等について、等

②学術交流「覚書」（更新）締結（於：日韓会長会議）

出席者（日本）：岩崎晋也会長、黒木保博副会長・国際学術交流促進委員会委員長、  
岩間伸之総務担当理事、岡田忠克理事・国際学術交流促進委員会委員、  
金圓景委員、蘇珍伊委員、

出席者（韓国）：Park Byung Hyun 会長、Lee Bong Joo 次期会長、Kim Giduk、  
Choi Myung Min

③韓国社会福祉学会春季学術大会への派遣：個人自由研究発表者として参加

開催月日：2016年4月29日（金）、30日（土）

開催場所：韓国釜山市 BEXCO

派遣者：6チーム（福島忍、高泰洙、宮竹孝弥、高橋康史、丸岡稔典、金慧英・石川久展）

④2017年度韓国社会福祉学会春季学術大会への個人自由研究発表者審査

2016年10月募集、12月締め切り、2017年1月審査結果発表

(2) 中国社会学会社会福祉研究専門委員会第8回年次大会招聘

開催月日：2016年9月24日（土）～26日（月）

開催場所：中国上海市 復旦大学

招聘者：黒木保博副会長、包敏国際学術交流促進委員会委員

(3) 日・韓・中 3 カ国学術交流会議について

①開催日時：2016年9月9日（金）17：45～18：30

開催場所：佛教大学特別会議室

協議事項：3カ国学術交流協定締結をめぐって

出席者：日韓会長会議出席者、中国：銭寧副理事長、高和栄（厦門大学教授）

②開催日時：2016年9月24日（土）20：00～21：00

開催場所：復旦大学

協議事項：3カ国学術交流協定締結をめぐって

出席者（日本）：黒木保博副会長、包敏国際学術交流促進委員会委員

出席者（韓国）：Park Byung Hyun 会長、Lee Bong Joo 次期会長、Kim Kyosung アジア学術分科委員会会長

出席者（中国）：彭華民（南京大学教授・中国社会福祉研究専門委員会常務副理事長）、銭寧（雲南大学教授・中国社会福祉研究専門委員会副理事長）、陳樹強（中国青年政治学院教授・中国社会福祉研究専門委員会副理事長）、顧東輝（復旦大学教授・中国社会福祉研究専門委員会副理事長、中国ソーシャルワーク教育協会副会長）、趙一紅（中国社会科学院教授・中国社会福祉研究専門委員会秘書長）

※なお、中国側の今後の日中間の連絡窓口者：Yang Zeng（上海大学社会学院）、中韓間の連絡窓口者：Gao Chunlan（長春工業大学）が任命された。

3) 国際学術シンポジウム開催

「日中韓国際シンポジウム」

開催日時：2016年9月11日（日）9：30～12：00

開催場所：佛教大学1号館4階1-420教室

テーマ：「移住と社会福祉 Part2 共生社会のあり方を求めて」

企画趣旨説明・コーディネーター：志村健一（国際学術交流促進委員）

シンポジスト：

原島 博（ルーテル学院大学）

「フィリピン人女性と子どもの日本への移住による生活困窮と支援の課題」

Kim Giduk（順天郷大学）

「文化的力量批判談論に関する社会哲学的分析」

Choi Myung Min（白石大学）

「韓国における多文化社会福祉実践の試行錯誤と改善方策」

Gao He-Rong（厦門大学）

「派遣労働者：社会転換時に直面する福利議題」

コメンテーター：加山 弾（東洋大学）

石河久美子（日本福祉大学）

岡田忠克（関西大学・国際学術交流促進委員会委員）

翻訳・通訳者：同志社大学大学院生（張春花、姜民護、朴ヘビン、楊慧敏）

#### 4) 国際学術交流促進委員会開催

第1回 7月16日(土) 11:00~14:00 (於:京都市 同志社大学)

第2回 12月2日(金) 16:30~19:00 (於:京都市 同志社大学)

#### 2. 現在、検討している事項

- 1) 日中韓3か国学術交流「覚書」締結のための内容検討について
- 2) 留学生の研究活動に対する学会としての取り組みについて(情報収集と提供)  
第65回秋季大会での留学生ワークショップ内容・実施案について

#### 3. その他(課題等)

アジア諸国、欧米諸国との学術交流のあり方の検討

#### 5) 広報委員会

##### 1. 2016年度において推進した事業

###### (1) 広報委員会の開催

日時:2016年7月17日(土)10:00~12:00

場所:立教大学池袋キャンパス 12号館地下1階 第一会議室

内容:①委員の役割分担 ②ロゴマークの規定確認 ③学会ニュースNo.73号について

④広報委員会だよりについて ⑤その他

○学会ホームページ内の役員専用ポータルサイトと広報委員会メーリングリストを積極的に活用し、進行管理をすることができた。

###### (2) 学会ホームページの運営・管理

○新着情報の掲載と情報の更新

○学会ニュースの閲覧を一括ダウンロードできるようにし、容易にアクセスできるようにした。

○ロゴマークの使用許可書、規程を学会ホームページにアップした。

###### (3) 「広報委員会だより」の発行 ※年5回の一斉送信

第29号(2016年5月2日)、第30号(2016年7月20日)、第31号(2016年9月2日)

第32号(2016年11月22日)、第33号(2017年2月27日)

###### (4) 「学会ニュース」の発行 ※ホームページ上に年3回掲載

第72号(2016年7月11日)、第73号(2016年10月26日)、第74号(2017年2月6日)

○新規シリーズ「社会の潮流を読む」を企画し、執筆者の検討・依頼をしている。

###### (5) 学会ロゴマークの規程作成と運用

学会ロゴマークの規程として、ロゴマーク設置目的、ロゴマーク使用目的、ロゴマーク使用者、ロゴマーク許可、承認、許可申請の不要な使用範囲などを検討し作成、理事会の承認を得た。

## 2. 現在、検討している事項

- ・学会ホームページのモバイル化（2017年度予算化）
- ・英語版ホームページの検討

## 6) 機関誌編集委員会

### 1. 2016年度において推進した事業

#### (1) 学会機関誌『社会福祉学』刊行

##### ①機関誌編集委員会活動

##### i. 機関誌編集委員会構成

2016年度には以下の17名で機関誌編集委員会を構成し、業務にあたった。

委員長： 坪 洋一（理事）、副委員長：今井小の実（理事）

委員：池本美和子、石川時子、沖倉智美、奥西栄介、加藤博史、川島ゆり子、  
倉持史朗、小泉広子、小林 理、柴田謙治、三島亜紀子（英文誌担当）、  
村田文世、室田信一（英文誌担当）、山井理恵、山本真実

##### ii. 機関誌編集委員会開催

2016年度には編集委員会を計4回開催した（7月10日（日）、10月1日（土）、1月8日（日）、3月23日（木））。また査読者の選定については、編集委員会ポータルを活用して、8月、11月、2月、5月に実施した。

##### iii. 機関誌拡大編集委員会開催

査読委員を含めた拡大編集委員会を、第64回秋季大会にあわせて9月10日（土）の12：10～13：00に、佛教大学で開催した。

##### iv. CiNii から J-STAGE へのデータ移行および J-STAGE への登載について申請を行い、採択された。2017年4月以降、公開の見込みである。

##### ②機関誌「社会福祉学」刊行

2016年度には和文誌を4回（57-1/57-2/57-3/57-4）発行した。なお英文誌「Japanese Journal of Social Welfare」については、論文4本の投稿があり、現在審査中である。5月末に5号としてオンライン刊行予定。

#### (2) 地域ブロック機関誌刊行

各地域ブロックによる機関誌の刊行については、各地域ブロックからの事業報告に掲載されている。

## 2. 現在、検討している事項

### ①二重投稿に関するガイドラインの作成

既発表の論文や著書からの「サラミ投稿」をはじめ、二重投稿基準がない中で対応に苦慮する投稿が多発している。昨年度中におおむねガイドラインが完成したが、本年度は歴史研究、学説研究、質的研究等、研究手法の差異をふまえた二重投稿基準の検討を課題としている。

## ②投稿要領・執筆要領の改訂

電子投稿査読システムの導入に伴う要領の改訂を予定している。システム導入とはまた別に、博士論文執筆・審査中の論文投稿のあり方や、リジェクトされた論文の再投稿に関する規定など、手つかずの課題について審議し、要領に盛り込みたいと考えている。

## ③電子投稿査読システムの導入に伴うマニュアルの整備

新システムの本年度導入に向けてマニュアルの整備を予定している。システムを実際に使用し、不具合や問題点等を洗い出し、マニュアルを作成したいと考えている。

## 3. その他（課題等）

英文誌・和文誌ともに査読の辞退が頻発している。投稿数の増加や勤務校の業務量増大など、要因は多々考えられるが、学会誌の存続のためにご協力頂くよう啓発に力を入れたいと考えている。

## 7) 研究倫理に関する検討委員会

### 1. 2016年度において推進した事業

今年度より、本委員会が設置され、5回の会議（7月2日、8月8日、9月5日、10月26日、1月11日）一会場はいずれも東洋大学白山キャンパス）を開催した。理事会・運営委員会とも協議し、現在までに以下のことを確認した。

- 1) 現行の「日本社会福祉学会研究倫理指針」を廃止し、新規に「日本社会福祉学会倫理規程（案）」を作成する。
- 2) 研究倫理規程の趣旨を踏まえ、会員の研究活動における具体的な留意事項等を定めた「研究倫理規程にもとづく研究ガイドライン（案）」を作成する。
- 3) 「学会発表に関する注意事項（案）」を作成する。
- 4) 以上をふまえて、現行の「研究倫理上重大な違反行為が認定された会員に対する処分に関する規程」の内容を「日本社会福祉学会研究倫理規程（案）」に組み込み、同処分規定を廃止する。
- 5) 以上をふまえて、「研究倫理委員会規程」及び「倫理指針に違反する行為申立書」の改正案・修正案を作成する。

現在までに、上記1)～3)の文案作成を進めている。

### 2. 現在、検討している事項

- ・今期の体制の下で2018年度の総会にかけて発効させる方向
- ・パブリックコメントの実施
- ・弁護士等の専門家への相談
- ・岩間委員長の逝去に伴う委員長の交代（山田壮志郎）及び委員の補充（横山由香里会員）

### 3. その他（課題等）

大会における当日配布資料に研究倫理上の問題があった場合の対応について（本委員会とは別の委員会で検討予定）

## 北海道地域ブロック 2016年度 事業報告書

### 1. 2016年度において推進した事業

#### (1) 理事会の開催

3回開催：2016年5月22日、2017年2月9日、4月7日

#### (2) 研究大会開催

日時：2016年4月16日（土）参加者55名

会員研究報告（30分報告、10分質疑）10：30～11：10

若手研究会の報告 11：30～12：00

基調講演 13：30～16：30 河合克義 氏（明治学院大学教授）

「高齢者の貧困と社会的孤立」

#### (3) 総会

2016年4月16日（土）16：40～17：20 出席者11名 於：北星学園大学

議 題：①報告事項

1) 2015年度 事業報告

2) 2015年度 収支決算報告

3) 2015年度 監査報告

②議決事項

1) 2016年度事業計画（案）

2) 2016年度予算（案・暫定）

#### (4) 若手研究会

第1回 2016年6月23日（木）18：30～21：00

北海道大学 W棟 W101教室 参加者：7名

第2回 2016年9月5日（月）18：30～21：00

北海道医療大学あいの里キャンパス 演習室3-1 参加者：5名

第3回 2016年12月13日（火）18：30～21：00

北海道大学 W棟 8番教室 参加者：6名

第4回 2017年3月16日（木）18：30～21：00

北海道大学 W棟 507教室 参加者：11名

#### (5) 広報

ニュースレターの発行 3回

#### (6) 機関誌編集委員会

3回開催～ 2016年2月6日 2017年3月9日 2017年3月27日

「北海道社会福祉研究」第37号（電子ジャーナル）発行

2017年3月 発行 論文2本

## 2. 現在、検討している事項

2017年度は、特に若手研究会の活性化の方策について検討を行う。

## 3. その他（課題等）

札幌圏以外の遠方の会員の学会参加の促進が課題である。

# 東北地域ブロック 2016年度 事業報告書

## 1. 2016年度において推進した事業

### (1) 2016年度日本社会福祉学会東北部会第15回研究大会（福島大会）の開催

- ・開催目的：東北地方の会員に対して、研究成果の発表および情報提供の場とすると共に、相互の親睦をはかる場とする。
- ・年月日：2016年7月24日（日）開催
- ・開催会場：いわき明星大学
- ・概要：2016年7月24日、いわき明星大学を会場に、第16回日本社会福祉学会東北部会研究大会（福島大会）を、「復興支援とソーシャルワークの今後～福祉の地域づくりと支援の在り方～」を大会テーマとして開催した。
- ・午前中は、郡山女子大学村田清氏を講師に「ジェントル・ティーチングによる人支援」の基調講演があった。
- ・午後の自由研究発表が開催され、口頭発表3分科会で14題、ポスター発表は6題の発表が行われた。
- ・午後の後半には、東日本大震災後5年を経過した被災3県の「東日本大震災を振り返る－災害時における福祉支援を考える－」をテーマにシンポジウムを開催した。報告者は加藤良太氏（岩手県社協）・野田毅氏（東北福祉大学）・島野光正氏（福島県社会福祉士会）であった。

### (2) 研究誌「東北の社会福祉研究第12号」の発行（2017年3月）

### (3) 幹事会（役員会）の開催

- ・研究大会に合わせて開催し、この幹事会で翌年度の開催地を決定した。  
第一回 幹事会 2016年4月10日（日）いわき明星大学  
第二回 幹事会 2016年7月24日（日）いわき明星大学

## 2. 現在、検討している事項

- ・ホームページを設けていないので、今後開設に向けた協議に入る必要があり、学会本部の方針に沿って対応する。
- ・研究誌の電子化に向けた協議を行った。
- ・ニュースレターの発行ができず、第15回研究大会の開催報告、第15回大会の開催通知がされていない。第15回大会の詳細を決定次第（2017年4月22日の幹事会で決定）、ニュースレターを発行する。

## 1. 2016年度において推進した事業

### (1) 運営委員会の開催

○第1回(2016年6月13日)、第2回(2016年9月15日)、第3回(2016年11月28日)、第4回(2017年3月11日)の計4回開催(於:明治学院大学白金キャンパス)

○各部会活動の実施・運営(広報委員会、『社会福祉学評論』編集委員会、研究大会部会、その他)

### (2) 研究大会の開催

○2016年度研究大会を2017年3月11日(土)に開催(於:明治学院大学白金キャンパス)

- ・大会テーマ : 当事者固有の文化にもとづいた社会福祉の構築
- ・基調講演 : 「目の見えない人は世界をどう見ているのかー身体論から考える障害ー」
- ・シンポジウム : 当事者固有の文化にもとづいた社会福祉の構築
- ・自由研究報告 : 23 演題(研究報告部門 13 題、萌芽的研究報告部門 9 題、実践報告部門 1 題)
- ・研究大会奨励賞 : 該当者なし

### (3) 機関誌『社会福祉学評論』の刊行

- ・電子ジャーナルで、2016年度に論文9本を刊行
- ・2016年度の投稿数は13本
- ・査読・編集体制の整備を継続して実施

### (4) 広報活動

○ホームページ

- ・『社会福祉学評論』の公開をはじめとして、研究大会抄録集、ニュースレター等を掲載。その他、関東地域で開催の公開講座・講演会、博士論文公開審査、最終講義の情報等を紹介するページを設置。
- ・一日あたりのアクセス数は150件程度

○会員情報管理システムによるメール配信サービスと連携し、情報発信を実施

- ・メールマガジン Ver.4 を2016年12月26日、同 Ver.5 を2017年3月6日にそれぞれ配信

○ニュースレター Vol.19 を2017年1月20日に発行

## 2. 現在、検討している事項

- ・機関誌『社会福祉学評論』の査読・編集体制について継続的に検討
- ・各部会活動の連絡・調整の促進

## 1. 2016年度において推進した事業

### (1) 研究例会の開催

#### ①2016年度研究例会

事業計画に基づき、4月23日(土)に、金城学院大学にて2016年度研究例会を開催した。  
内容は以下の通り。

#### 1) 大学院生・若手研究者のための勉強会(10:30~11:20)

山田壮志郎(日本福祉大学)「私の研究キャリアと研究の構想」

#### 2) 自由研究発表(11:30~12:45)

宮嶋淳(中部学院大学)ほか「地方都市『消滅』を乗り越えるCLSアプローチ」

小倉諒也(三重県社会福祉協議会)「日常生活自立支援事業の効果について」

渡邊かおり(愛知県立大学)「戦前の社会事業における被差別部落問題」

※司会:宮嶋淳(中部学院大学)、渡邊かおり(愛知県立大学)

#### 3) シンポジウム「介護保険制度の見直しの影響の検証」(13:50~16:20)

※コーディネーター:佐々木隆志(静岡県立大学)

<講演>

石川満(日本福祉大学)「介護保険制度の見直しの影響の検証」

<シンポジストからの発題>

荒井康友(中部学院大学)「高齢者の孤立死の実態に関する一考察」

黒川文子(愛知淑徳大学)「介護をめぐる人材とケアの質」

#### ②秋の研究例会

事業計画では予定していなかったが、5月24日に逝去された高島進・日本福祉大学名誉教授を追悼するためのシンポジウムを、日本福祉大学名古屋キャンパスにて、秋の研究例会として開催した。

内容は以下の通り。

<シンポジスト>

大友昌子(中京大学教授・社会事業史学会会長)

「社会事業史研究と社会事業史研究会・学会における高島進先生の貢献」

木戸利秋(日本福祉大学教授・日本福祉大学社会福祉学会運営委員長)

「日本における英国社会事業史研究への高島進先生の貢献」

中田照子(愛知県立大学名誉教授・元日本社会福祉学会中部部会担当理事)

「日本社会福祉学会中部ブロック部会の発展における高島進先生の貢献」

※コーディネーター:伊藤文人(日本福祉大学)

※指定討論者:河合克義(明治学院大学)、喜多一憲(全国児童養護問題研究会会長)

### (2) 機関誌『中部社会福祉学研究』第8号の刊行

2017年3月に第8号を刊行する。上記の秋の研究例会の内容を掲載するほか、投稿論文3本(投稿数4本)、書評3本を掲載する。日本社会福祉学会ウェブサイトの中部ブロックページに掲載する。

(3) 「院生・若手研究者のための勉強会」の開催

上記の通り、4月23日（土）の研究例会に合わせて開催した。

(4) その他

部会の事業運営について協議するための常任幹事会を4回（4月、6月、9月、11月）開催した。また、部会内に、①機関誌、②院生・若手研究者のための勉強会、③研究例会について検討する委員会をそれぞれ設置し、適宜会議を行った。

2. 現在、検討している事項

- ・2017年度の研究例会を2017年4月22日に開催する予定にしている。
- ・中部地域においては、研究者養成を主眼とする福祉系大学院が減少し、社会人大学院が増加していることから、院生・若手研究者のための勉強会についても、「若手」研究者だけでなく、実践現場の社会人もターゲットとした内容を企画することを検討している。また、そのために、委員会の構成も見直すことを検討している。

3. その他（課題等）

- ・機関誌への投稿論文について、研究倫理上の問題がある論文の取り扱い

**関西地域ブロック 2016年度 事業報告書**

1. 2016年度において推進した事業

(1) 理事会の開催

- ・第1回 日時：2016年5月16日（月）18：00～  
場所：桃山学院大学 梅田サテライト  
議題 1. 2016年度年次大会および学会フォーラムについて  
2. 若手研究者・院生情報交換会について  
3. ニュースレターについて  
4. 機関誌について  
5. B会員の会費徴収等について  
6. 2016年度予算（案）について  
7. その他
- ・第2回 日時：2017年2月21日（火）18：00～  
場所：関西大学 梅田キャンパス  
議題 1. 2016年度年次大会について  
2. 2017年度 事業計画書(案)について  
3. 2017年度 予算（案）について  
4. 2016年度 事業報告（案）について  
5. 2016年度 決算報告（案）について

6. 機関誌『関西社会福祉研究』3号について

7. その他

- ・その他メーリングリストを活用して、必要に応じて情報を共有し、意見交換をした。

(2) 若手研究者・院生情報交換会

・第37回 若手研究者・院生情報交換会

テーマ：「若手研究者の研究教育スタイル」

日時：2016年8月27日（土）14：00～17：00

場所：龍谷大学サテライトキャンパス

講師：①松本 しのぶ（京都光華女子大学講師）

「父親の家庭・地域参画の促進を意図した家族参加型子育て支援プログラムの開発」

②郭 芳（同志社大学特任助手）

「中国の介護市場に進出した日本式介護サービスへの国際的評価に関する研究」

担当：石田 慎二（帝塚山大学准教授）

参加者：12名

・第38回 若手研究者・院生情報交換会

テーマ：「質的分析の手法について」

日時：2016年10月2日（日）14：00～17：00

場所：大阪府立大学中百舌鳥キャンパス 学術交流館 多目的ホール

講師：佐藤 郁哉（同志社大学商学部教授）

「定性的（質的）研究とは？－エスノグラフィーの場合－」

指定討論者：西田 芳正（大阪府立大学教授）、田垣 正晋（大阪府立大学准教授）

担当：山野 則子（大阪府立大学教授）

参加者：98名

・第39回 若手研究者・院生情報交換会

テーマ：「国際比較研究の枠組み構築－研究対象設定を中心に－」

日時：2017年1月21日（土）14：00～17：00

場所：同志社大学新町キャンパス「溪水館1階会議室」

司会：郭 芳（同志社大学特任助手）

講師：（基調講演）陸麗君（華東理工大学客員研究員）「比較研究の枠組み構築について」

（報告）①羅佳（四国学院大学准教授）

「日本の理論枠組みを用いて母国の実態をどう分析するのか」

②任貞美（同志社大学博士後期課程）

「虐待の連鎖は断ち切れるのか－日本の高齢者福祉施設を中心に－」

③姜民護（同志社大学博士後期課程）

「留学経験から母国の状況をより客観的にみる」

担当：木原 活信（同志社大学教授）、黒木 保博（同志社大学）

### (3) 年次大会の開催

場 所：関西学院大学上ヶ原キャンパス G号館 301 教室

日 時：2017年 3月 11日（土）10：00～16：30

- ・自由研究発表 10：00～12：00
- ・年次総会 12：45～13：15
- ・大会校および会長挨拶 13：20～13：30
- ・シンポジウム 13：30～16：30

テーマ「地域生活支援のためのメゾソーシャルワーク実践について

－路上生活者や引きこもりの人、薬物依存者に焦点を当てて－

- ・コーディネーター：牧里 每治（関西学院大学人間福祉学部教授）
- ・シンポジスト：泉 佳孝（神戸保護観察所 統括保護観察官）  
倉田 めば（NPO 法人大阪ダルクディレクター、Freedom 代表）  
勝部 麗子（豊中市社会福祉協議会福祉推進室長）  
白波瀬 達也（関西学院大学社会学部准教授）

### (4) 機関誌の発行

- ・機関誌『関西社会福祉研究』第3号 2017年3月発行

## 中国・四国地域ブロック 2016年度 事業報告書

### 1. 2016年度において推進した事業

#### (1) 部会委員会の開催

中国・四国ブロックの会員より15名（ブロック大会終了後14名）の役員を選任し、委員会を3回開催した。

- ①6月18日（土）
- ②12月18日（日）
- ③3月4日（土） \*場所はいずれも岡山県総合福祉・ボランティア・NPO会館

#### (2) 中国・四国地域ブロック第48回山口大会の開催

- ①開催日時場所等：7月2日（土）宇部市文化会館 担当校：宇部フロンティア大学
- ②テーマ 「スクールソーシャルワーカーのあり方と方向性」
- ③内容 基調講演「スクールソーシャルワークの現在（いま）・そしてこれから」  
講師 山下英三郎（日本社会事業大学名誉教授）  
シンポジウム「不登校とスクールソーシャルワーカー」

#### (3) 中国・四国地域ブロック総会の開催

- ①開催日時場所等：7月2日（土）12：20～13：00 宇部市民会館
- ②議案

第1号議案 2015年度事業報告および決算、監査報告

第 2 号議案 2016 年度事業計画（案）および予算（案）

③報告

- 1 部会委員会委員について
- 2 機関誌『中国・四国社会福祉研究』について
- 3 2016 年度社員総会報告
- 4 2016 年度日本社会福祉学会フォーラム開催
- 5 2017 年度地域ブロック大会
- 6 その他

(4) 中国・四国地域ブロック特定課題研究

中山間地域の社会福祉問題を中心とした、中国・四国地域の状況に対応した研究を推進することとし、ブロック大会で「特定課題セッション」を設けた。

(5) 中国・四国地域ブロック会報の発行

- ①発行回数 年 2 回（6 月 21 日、2 月 1 日）
- ②内容 担当理事による巻頭言、地域ブロック大会等の案内、機関誌投稿の案内

(6) 中国・四国地域ブロック機関誌の編集

2015 年度投稿分について、投稿が少なく、その投稿も査読で不採択となったため、発行できなかった。2016 年度については、11 月末締切の投稿について査読中。

(7) 第 13 回日本社会福祉学会フォーラム開催

- ①開催日時場所等：3 月 26 日（日）おかやま西川原プラザ
- ②テーマ 「児童福祉法改正で何が変わるかー社会福祉実践がすべきことー」
- ③内容 基調講演「児童福祉法改正と研究・現場実践の課題」  
講師 松原康雄（明治学院大学学長）  
シンポジウム「児童を取り巻く課題と社会福祉実践の役割」

2. 現在、検討している事項

- ①会員減少への対策
- ②特定課題研究の成果を冊子にして発行する。

3. その他（課題等）

- ①機関誌の投稿が数本にとどまっているので、増加の方策を探る必要がある。査読もスムーズではなく、発行の遅れにつながっている
- ②ブロック大会の参加者が、開催校の尽力で、ある程度確保されてはいるが、会員の参加が必ずしも活発ではない
- ③メールによる配信や機関誌の電子化を進めてきたが、その結果一部の会員に情報が届いていない恐れがある。
- ④部会委員会の出席率の向上。

## 1. 2016年度において推進した事業

### (1) 運営委員会の開催

運営委員会が運営委員 5名および事務局、九州部会代表にて構成され、運営委員会を開催。

#### 第1回運営委員会

開催日時：2016年6月18日（土）11：00～12：00

開催場所：長崎ウエスレヤン大学

#### 第2回運営委員会

開催日時：2016年9月20日（火）13：00～15：00

開催場所：西九州大学

#### 第3回運営委員会

開催日時：2017年1月16日（月）

開催場所：メールによる会議を実施

#### 第4回運営委員会

開催日時：2017年3月29日（水）

開催場所：クローバープラザ ※別途、事務局会議を適宜実施

### (2) 研究大会（第57回）の開催

- ・開催校：長崎ウエスレヤン大学（長崎県諫早市）
  - ・大会テーマ：「持続可能な地域再生型社会をめざして～安心社会のしくみを考える～」
  - ・開催日：2016年6月18日（土）～19日（日）
  - ・基調講演：「安心社会のしくみづくりをめざして」 田上富久氏（長崎市長）
  - ・シンポジウム：「持続可能な安心社会の条件と課題」
    - シンポジスト 内村公義氏（まちなか相談室「風の舎」代表）
    - 松島孝造氏（長崎市ダイヤモンド第三自治会会長）
    - 玉田一幸氏（雲仙市地域包括支援センター社会福祉士）
  - アドバイザー 田中英樹氏（早稲田大学教授）
  - 益本昌明氏（長崎県社会福祉協議会事務局長）
  - コーディネーター 中野伸彦氏（長崎ウエスレヤン大学教授）
- ・参加者：92名（2日間合計）

### (3) 2016年度定期総会の開催

- ・開催日：2016年6月18日（日）
- ・会場：長崎ウエスレヤン大学（長崎県諫早市）
- ・議事内容
  - 2015年度事業報告
  - 2015年度収支決算および会計監査報告
  - 2016年度事業計画
  - 2016年度予算

(4) 機関誌「九州社会福祉学第13号」の発行

- ・ 投稿論文数：8本、研究ノート1本 計9本
- ・ 論文掲載数：6本、研究ノート1本 計7本
- ・ 編集作業を次の手続きにより実施
  - ① 査読者（各論文2名）による査読結果に基づき、修正など投稿者に依頼
  - ② 修正された論文について編集委員会にて掲載の可否、掲載区分を決定。  
投稿者に結果通知。
  - ③ 論文の校正
  - ④ 2017年3月に会員あて発送

2. 現在、検討している事項

機関誌要綱の改訂（機関紙投稿掲載者の発行手数料徴収）を検討している。

一般社団法人日本社会福祉学会 第5期(通算第26期) 役員担当業務一覧

別表-①

氏名	主たる担当業務	担当委員会委員等	備考
岩崎 晋也	会長	運営委員会	社会政策関連学会協議会 日本社会福祉教育学校連盟(監事) 日本社会福祉士養成校協会(理事)
黒木 保博	副会長 国外渉外担当	運営委員会 国際学術交流促進委員会(委員長)	日本社会福祉系学会連合(会長) 社会学系コンソーシアム ソーシャルケアサービス従事者研究協議会
岩間 伸之	総務担当	運営委員会(事務局長)	事務局連絡会担当 ソーシャルケアサービス従事者研究協議会 社会政策関連学会協議会
金子 光一	財務担当	運営委員会 全国大会運営委員会 地域ブロック担当者委員会	日本社会福祉系学会連合(事務局長) 事務局連絡会担当
原田 正樹	研究担当	運営委員会 研究委員会(委員長) 全国大会運営委員会(委員長)	秋季大会担当
岡部 卓	研究担当	研究委員会 研究倫理委員会(委員長)	
大島 巖	研究担当	研究委員会 学会賞審査委員会	
倉田 康路	研究担当	研究委員会 全国大会運営委員会	フォーラム担当
山野 則子	研究担当	研究委員会 全国大会運営委員会	春季大会担当
湯澤 直美	国内渉外担当	地域ブロック担当者委員会(委員長) 広報委員会	社会学系コンソーシアム
小原 眞知子	渉外担当(広報)	広報委員会(委員長)	
坏 洋一	機関誌担当	運営委員会 機関誌編集委員会(委員長)	
今井 小の実	機関誌担当	機関誌編集委員会(副委員長)	
松本 伊智朗	地域ブロック担当	北海道地域ブロック担当	
三浦 剛	地域ブロック担当	東北地域ブロック担当	
久保 美紀	地域ブロック担当	関東地域ブロック担当 研究倫理委員会	
山田 壮志郎	地域ブロック担当	中部地域ブロック担当 研究倫理に関する検討委員会	
岡田 忠克	地域ブロック担当	関西地域ブロック担当 国際学術交流促進委員会	
杉山 博昭	地域ブロック担当	中国・四国地域ブロック担当 研究倫理委員会	
本郷 秀和	地域ブロック担当	九州地域ブロック担当	
小林 良二	監事		
市川 一宏	監事		

一般社団法人日本社会福祉学会 各種委員会構成

別表-②

委員会名	第5期委員会委員 (◎：委員長／○：副委員長)			
機関誌編集委員会	◎坪 洋一 池本 美和子 加藤 博史 小林 理 室田 信一	○今井 小の実 石川 時子 川島 ゆり子 柴田 謙治 山井 理恵	沖倉 智美 倉持 史朗 三島 亜紀子 山本 真実	奥西 栄介 小泉 広子 村田 文世
学会賞審査委員会	◎古川 孝順 大島 巖 黒田 研二	太田 貞司 三本松 政之	大友 昌子 白澤 政和	鬼崎 信好
広報委員会	◎小原 眞知子 飯村 史恵 吉田 光爾	小櫃 俊介	高山 恵理子	湯澤 直美
研究委員会	◎原田 正樹 倉田 康路	山野 則子	大島 巖	岡部 卓
国際学術交流促進委員会	◎黒木 保博 岡田 忠克 蘇 珍伊	金 圓景 沈 潔	阪口 春彦 包 敏	志村 健一
研究倫理委員会	◎岡部 卓 久保 美紀	児島 亜紀子	杉山 博昭	平野 方紹
全国大会運営委員会	◎原田 正樹 倉田 康路 岡崎 祐司 室田 信一	山野 則子 加美 嘉史 大谷 京子	金子 光一 岡部 卓 木下 武徳	岡村 正幸 和気 純子 山本 美香
地域ブロック担当者委員会	◎湯澤 直美 金子 光一 山田 壮志郎	松本 伊智朗 岡田 忠克	三浦 剛 杉山 博昭	久保 美紀 本郷 秀和
大会のあり方検討委員会	◎原田 正樹 倉田 康路 山本 美香	山野 則子	大谷 京子	木下 武徳
研究倫理に関する検討委員会	◎岩間 伸之 山田 壮志郎	岩永 理恵	金子 絵里乃	高山 直樹
学会資料のアーカイブ化推進委員会準備委員会	◎岩間 伸之 金子 光一	岡本 民夫	蜂谷 俊隆	元村 智明